

海の博物館及び速玉神社・古座神社・水門神社・住吉大社現地調査報告

日 時：平成20年12月3日～5日 6：00～20：00

場 所：鳥羽・海の博物館及び紀州速玉神社・古座神社・水門神社並びに大阪住吉大社

議 題：地域力発掘モデル事業「權伝馬」関係現地調査

調査事項：海の文化及び權伝馬の起源及び関連歴史等について聞き取り調査

調査参加者：地域協議会構成員（代理者含む）18名

1日目 バスは大崎商工会前6時出発し、垂水港6時30分発フェリーに乗船、河内ICから高速山陽道・名神を経て草津JCT 新名神伊勢関IC 伊勢道・伊勢二見ラインを経て鳥羽着、バス乗車後地域力発掘支援モデル事業の概要、現在までの取り組みの経緯、海の博物館・九鬼水軍・御船祭・河内祭り・水門祭り等について資料に基づき事務局からの説明も加えた予備知識吸収の勉強会を実施した。

石原海の博物館館長（多武保さん、山本さんとは旧知の仲で友好的にお世話になった。）

事前にアポ連絡済み。資料に基づき以下の説明をいただいた。

鳥羽は大崎上島とは權伝馬や槇肌船とのつながりがある。因島の小早レースにも参加、東野には何度かお邪魔した。鳥羽は2005年の愛知万博時に市民グループと市役所の青年が答志島の「島の旅社」プロジェクトを立ち上げ現在も続いている。

身近なものは良いかわからないので調査をし、島民と共に港や岬を地図におとしてみると意外な発見がある。島の人には単なる潮だまりであるが、都会人にとっては感激の場所でもある。浮島水族館とネーミングしたら来る人が増え島の旅社の女性がボランティアで対応している。また、答志島では路地（せこ）が狭く行き止まりもあるが、祠、水飲み場と島の人の大らかさが「サザエの底」路地として都会人に人気の場所となっている。

地域の食べ物も都会人に受け島の観光に目が向いてきた。地域には余所からの刺激により資源の発見があるので、多くの人と交流を心がけている。日本全体で海女の数に2千人で半数の1千人が志摩半島（すもぐり）にいる。韓国の済州島が海女を無形の世界遺産にしようと呼びかけがあり交流をしており、海女にも希望が付きかけてきた。

權伝馬も世界的な遺産と思う、韓国一対馬に始まり祭りという共同体が根付いており、地域より日本あるいは世界のレベルの資源であると思う。若い人の海離れや海に対する思いが薄く魚離れが進んでいる。海と人間との長い関係を取り戻す必要がある。農民に対し海に関係ある人を海民と呼んでいるとのことであった。志摩のPR映画を鑑賞後、木造船50隻以上の展示館、海のゴミの展示館、漁具等の展示館・格納庫見学、民具集めにはタイミングが必要、遅れるとごみとして破棄されるおそれがある。槇肌船西宝丸と対面。

帰り際に非常に貴重な「木造船の造船可能性調査報告書」をいただいた。感謝。

鳥羽シーサイドホテル泊 各部屋において今後の活動について有意義な議論がされた。

2日目速玉神社

社務所にて説明を受け、資料を購入した。

古座川町役場産業振興課黒澤和寛さん

突然の訪問にもかかわらず、さわやかな対応に感謝しつつ、祭りの内容の説明を受け、かつ、資料をいただいた。親切な青年のいる古座川町のさらなる発展を願う。

串本町観光協会坂成正人事務局長

事前に連絡しておいたら、資料まで用意して質問に答えていただきました。

権伝馬に参加する皆さんはどの地区においても情熱を感じさせられた。

水門（みなと）祭りの責任者 元区長浜泰央氏を紹介いただいた。

大島水門（みなと）神社氏子現川口区長

水門神社を訪問したが宮司のいない神社で、地域の方が区長に連絡をされ区長から水門祭りの関わりについて詳しく説明聞き、かつ、権伝馬を見せていただいた。

区長を初め地域の方々も加わり現地ミニ交流会がもてたことも一つの収穫であった。

白浜むさし泊 海面のイルミネーションが印象に残った。

3日目

三段壁洞窟

熊野水軍の舟隠し場であったという場所を現地調査、冬の格納は外洋に面しており、波も荒く不向きであったと推測した。

大阪住吉大社

東野住吉神社の本社であるので敬意を表してきた。

帰りのバスにおいて現地調査の成果、見習うべきところ、島興しへの参加、5年・10年後の希望及び構想等アンケートを全員に実施した。（まとめは後日公表予定）